

景色をつくる水と大地のものがたり

北区にある水辺はそれぞれに異なる成り立ち（ものがたり）を持っています

流れを変える川、陸に残された水、そして砂地にわく水



国営干拓前の福島潟 (S.43)



国営干拓後の福島潟 (S.55) 正面堤防（現在、桜並木のある道路）の左側が潟、右側が国営干拓地

かつて阿賀野川は信濃川と合流し、一本の川となって海に注いでいました。ところが1731年、雪どけによる増水で松ヶ崎掘割が決壊し、阿賀野川は直接、日本海に流れこむようになりました。その後、干拓が繰り返され、もっとも低い土地に残されたのが、現在の福島潟や内沼潟です。

阿賀野川右岸には、海流や風などによって運ばれた土砂が河口を閉じ込めてできたひょうたん池（松浜の池）や、かつて蛇行する阿賀野川の一部だった十二潟もあり、河川や海流の大きな動きを感じることができます。海岸の方では、砂丘と砂丘の間の低い地に水がわき、湿地となったサンベや浜サンベが水田などに利用されてきました。



福島潟のヒシとり (S.38)

潟の恵み

大雨の際には洪水を引き起こすなど、私たちの生活に大きな影響を与えた水辺は、豊かな恵みをもたらしてくれる生活の場でもありました。福島潟では、春はサシアミ漁やカブセアミ漁、夏はヒシやオニバスとり、秋はカスミ網やヨシ刈り、冬はカモ撃ちや寒ブナとりなどが行われていました。



内沼潟のハエナワ漁 (S.61) 針にかかった魚を網ですくう

暮らしとともにある里潟（さとかた）

多様な生き物のすみかとなり、その恵みを人と分けあう潟は「里潟」と呼ばれています。潟とともに生きてきた先人の文化や記憶をふりかえり、その宝を未来に伝えていくことは、私たちの使命なのかもしれません。当時の暮らしの様子は、水の駅「ビュー福島潟」や北区郷土博物館で知ることができます。

北区の水辺マップ

NEW!

- 景色をつくる水と大地のものがたり
- 福島潟～その環境と治水の今～
- 北区の水辺マップ

～豊かな水辺が広がる北区～

水の都・新潟市。中でも北区は阿賀野川や新井郷川、福島潟、さらには広大な水田が広がる、水と緑の豊かな街です。水辺には様々な植物に加え、虫や鳥、小動物、そして人と、沢山の生き物たちが暮らしています。北区の水辺の魅力を探しに、このマップを片手に出かけましょう。身近なところに思いもしない発見があるはずです。

福島潟 ～その環境と治水の今～

海より低い福島潟

新井郷川の中流（濁川地区）には、1954年に運転が始まった新井郷川排水機場があります。農作業をやすくし、周辺地域を水害から守るため、現在排水機場では潟の水位を海拔-0.7mになるように調整しています。満潮時、海拔+0.5mとなる日本海より、潟の水位は1m低くなっています。

水田を潟にもどす

30年に1度の大会水に備えて、福島潟の水をためる力を高めるため、江戸時代までに干拓された水田約80ha(ヘクタール)を潟にもどしています。自然を再生しながら治水を行う、新しい方法です。

雁晴れ舎（かんばれしゃ）

野鳥の観察ができます。

自然学習園の池

福島潟の貴重な水生生物が近くで観察できます。

潟をめぐる堤防 福島潟から、水位の高い日本海へ排水するため、洪水時にはバケツのように水を一度ためこみ、水位を海より高めて自然に流し出す方法がとられています。そのため福島潟の周囲には、バケツのへりとなる堤防がつけられています。

水源となる川

福島潟には周辺から13本の河川が流れ入り、その水は、新井郷川をへて日本海に注いでいます。

オニバス池

水生植物オニバスの花の見ごろは、8月上旬から9月中旬です

やわらかな堤防線

潟の風景を生かしやわらかな曲線をえがく堤防は、2016年度土木学会デザイン賞奨励賞を受賞しました。

遊潟広場

ハスの花を楽しめます。

水の駅「ビュー福島潟」

☎ 025-387-1491

福島潟放水路

洪水時は、新井郷川の排水機場と阿賀野川の胡桃山（くるみやま）排水機場で排水してきましたが、それでも福島潟周辺はたびたび水害におそわれました。人々の暮らしを水害から守るため、福島潟の水量が上がった時、海へ流出させる福島潟放水路が2003年に完成しました。